

# 熊本地震による山鹿市内の古墳被害について

山口健剛（山鹿市教育委員会）

## 1. 山鹿市内の熊本地震と被害概要

### ① 山鹿市内の熊本地震

表1 4月14日21時26分以降に発生した震度6弱以上を観測した地震の一覧表

発生時刻	震央地名	マグニチュード	最大震度	山鹿市の震度
4/14 21:26	熊本地方	6.5	7	4
4/14 22:07	熊本地方	5.8	6弱	4
4/15 00:03	熊本地方	6.4	6強	4
4/16 01:25	熊本地方	7.3	7	5強
4/16 01:45	熊本地方	5.9	6弱	4
4/16 03:55	阿蘇地方	5.8	6強	3
4/16 09:48	熊本地方	5.4	6弱	3

気象庁発表の資料（ホームページ）をもとに作成

### ② 山鹿市内の地震被害概要

ア 家屋被害 全壊0件、半壊18件、一部損壊534件（いずれも住家。山鹿市防災監理課による情報提供）

#### イ 文化財の被害

オブサン古墳（国史跡）…一部石材落下、御霊塚古墳（県史跡）…一部石材落下、  
臼塚古墳（市史跡）…一部石材落下

相良寺千手観音（市彫刻）…一部破損、持物5～6個落下、11面のうち2面落下、台座にずれ  
有福寺跡五輪塔（市建造物）…水輪が剥離落下

その他、未指定文化財の被害（神社の全壊、鳥居の落下、狛犬の破損など）約110件

※一部、山鹿市文化財保護委員会竹下輝幸委員長の情報提供による

## 2. 山鹿市内の古墳被害

### ① オブサン古墳

#### ア 古墳の概要

所在地 山鹿市城字西福寺1765、1786  
墳丘 円墳（突堤を有する）  
時代 古墳時代後期  
規模 直径22m（馬蹄形状の幅4mの周溝を有する）  
主体部 複室の横穴式石室で石屋形を有する

装飾	玄室西側仕切り石に赤色の連続三角文
調査	平成 59 年、昭和 60 年 熊本県教育委員会（桑原ほか 1987）
指定	平成 59 年 熊本県史跡に指定、平成 11 年国史跡に指定（管理団体山鹿市）
整備	平成 60 年度 熊本県教育委員会（桑原ほか 1987）

#### イ 地震被害

羨門部天井石がずれて隙間が生じ、巨大な石に挟まれていた長さ 46cm、幅 18cm、厚さ 10cm のものをはじめ合計 6 点の石が落下した。また同様の石が落下まではせずとも、下へずれている。

石室内の落土も発生した。前室南西角におけるものが最も規模が大きく、そのほか前室東壁、玄室西壁でも落土が確認された。その他、石材の亀裂も随所に見られる。

#### ウ 応急装置と今後の復旧

熊本県立装飾古墳館により、落土部分の復旧が行われた。ガンゼキと呼ばれる方法で石材間に発生した隙間が埋められた。詳細は装飾古墳館の研究紀要をご参照願いたい（坂口 2017）。

平成 28 年 12 月、文化庁と熊本県が招へいた委員会委員の実見では、全解体組み直しするほどの被害ではないという見解をいただいた。そのため、今後有識者による委員会の意見を聞きながら、落石が生じた羨門部の復旧を中心とした工事を行うことになると考えている。

## ②御霊塚古墳

### ア 古墳の概要

所在地	山鹿市鹿本町津袋 307
墳丘	円墳
時代	古墳時代後期
規模	直径約 10 m（現状）
主体部	単室の横穴式石室
装飾	玄室に二重円文や靱などの彩色の装飾
調査	平成 12 年 鹿本町教育委員会
指定	昭和 52 年 熊本県史跡に指定
整備	昭和 53 年 鹿本町教育委員会

#### イ 地震被害

もともと石室のゆがみが指摘されていた古墳である。今回の地震により、そのゆがみが一層ひどくなった。具体的には、玄室の奥壁左側の石が右側へずれ、孕みが生じた。特に上部側では、上下にわずかしか荷重がかかかっていない石もある。また、天井石が南西側（左下）へ傾いている。このほか、石室の石材の数点が床面へ落下した。

#### ウ 応急装置と今後の復旧

これ以上の石のズレが生じた場合、石室崩壊の恐れも考えられた。雨水の流れ込みにより、石のズレが起こることも想定されたことから、それを防ぐため防水シートを墳丘全面に張った。しかし、この方法は石室内の環境を悪化（高温化と乾燥）させることとなり、早期の抜本的な対策が必要である。上記委員の指摘では、石室の積み直しが必要との意見もあり、墳丘全体の整備も含めて検討していく必要がある。

### ③臼塚古墳

#### ア 古墳の概要

所在地	山鹿市石字臼塚 7 6 4
墳丘	円墳
時代	古墳時代後期
規模	直径 28.6 m (復元推定)
主体部	単室(複室?)の横穴式石室(石屋形を有する)
装飾	玄室に二重円文や靱など
調査	昭和 3 1 年 熊本県立山鹿高校(現;鹿本高校)考古学部
整備	未整備 平成 1 1 年 覆屋を改修(山鹿市教育委員会)
指定	昭和 4 5 年 山鹿市史跡に指定

#### イ 地震被害

天井石が除去され、簡易な覆屋が屋根となっている。雨水が石室内に入らないため、普段から石室内が非常に乾燥した状態にあった。地震による揺れで、石室周辺(特に玄室北東部)の土が内部へ流れ落ち、石材も一部落下した。もっとも被害がひどかったのが、前室である。前室は明治時代の県道整備により大部分を切り取られ、その切断面は谷積みの石垣で塞がれていた。今回の地震により、その石垣の裏込め石や土が床に落下した。

#### ウ 応急措置と今後の復旧

特別な応急措置は講じていない。今後の復旧は全室部を中心に行うこととなるが、石室内の環境良化のために、根本的な対策が必要である。

#### 引用文献

- 桑原憲彰ほか編 1987 『オブサン古墳』 熊本県文化財調査報告第 87 集 熊本県教育委員会
- 坂口圭太郎 2017 「伝統的修復部材である「ガンゼキ」を用いた装飾古墳の修復の試み～熊本県山鹿市所在・国史跡オブサン古墳における例～」『研究紀要』第 13 集 熊本県立装飾古墳古墳館
- 高木正文ほか編 1984 『熊本県装飾古墳 総合調査報告書』熊本県文化財調査報告第 68 集 熊本県教育委員会
- 長谷部善一ほか編 2000 『県史跡 御霊塚古墳』鹿本町文化財調査報告第 3 集 熊本県鹿本町教育委員会

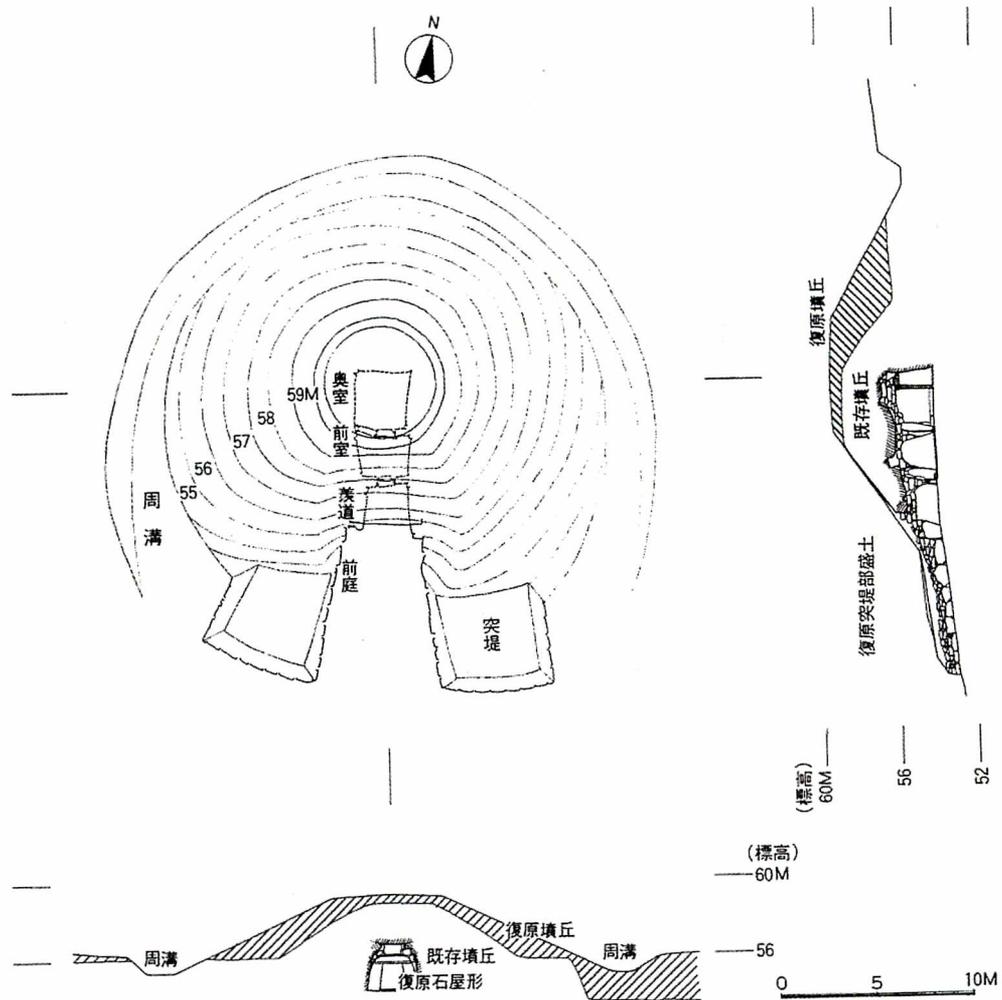


図 1 オブサン古墳墳丘復原図 (桑原ほか 1987 を一部改変)

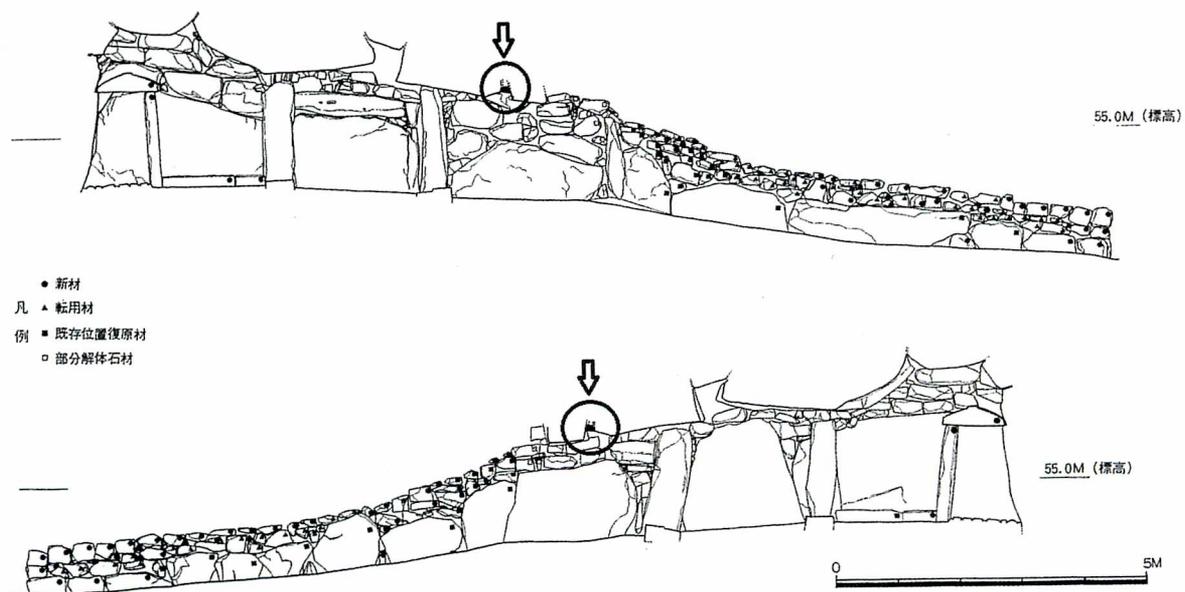


図 2 オブサン古墳石積使用部材図 (桑原ほか 1987 を一部改変)



図3 御霊塚古墳群 墳丘現状実測図（長谷部ほか 2000） 左が御霊塚古墳

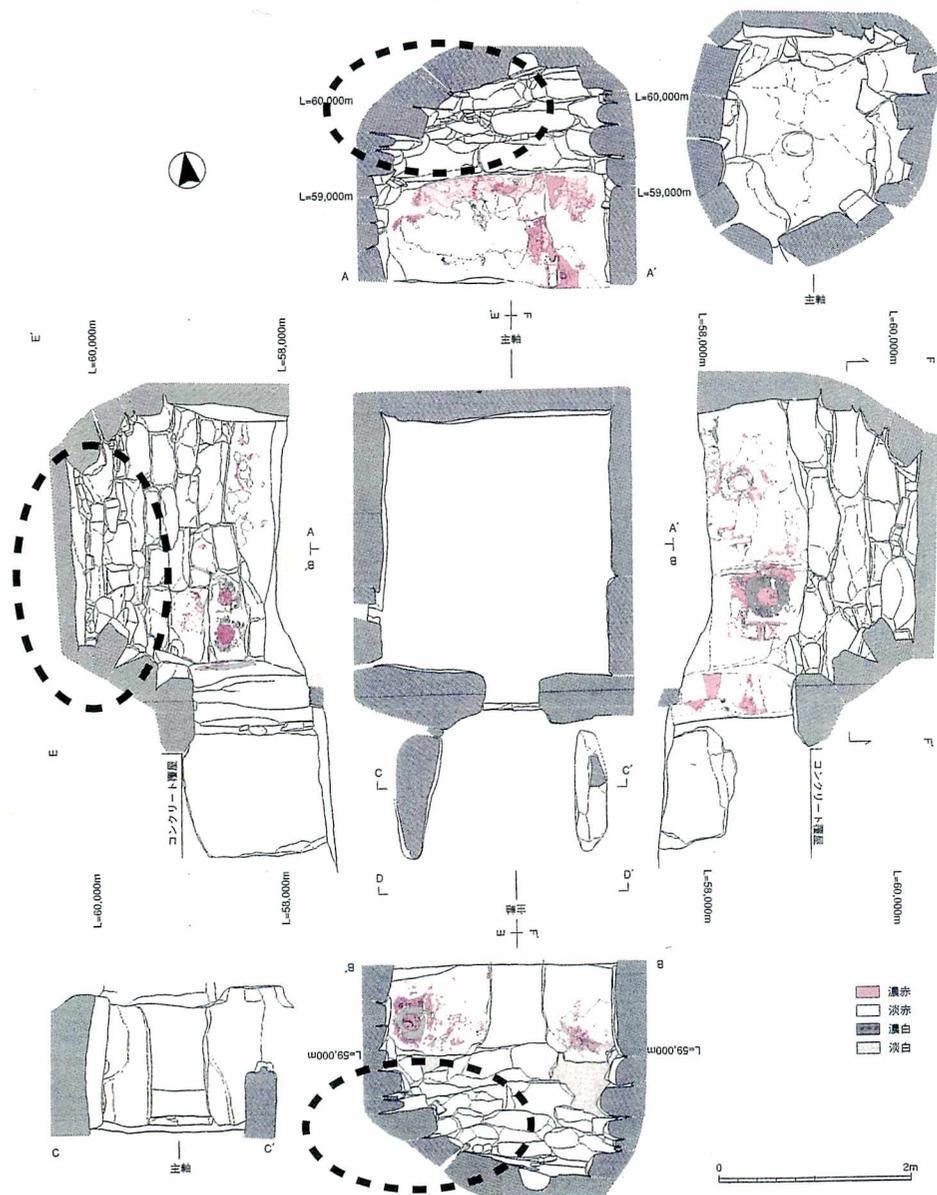


図4 御霊塚古墳 石室実測図（長谷部ほか 2000 を一部改変）

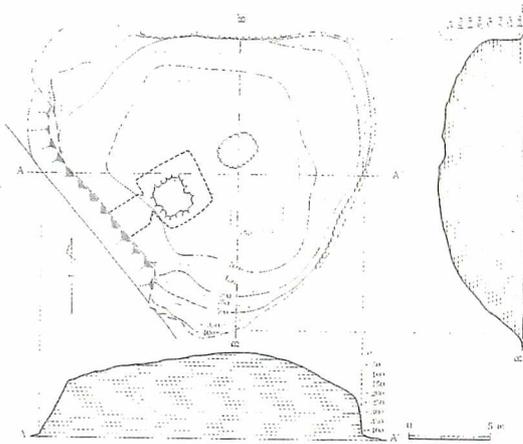


図5 白塚古墳 墳丘実測図 (高木ほか 1984)

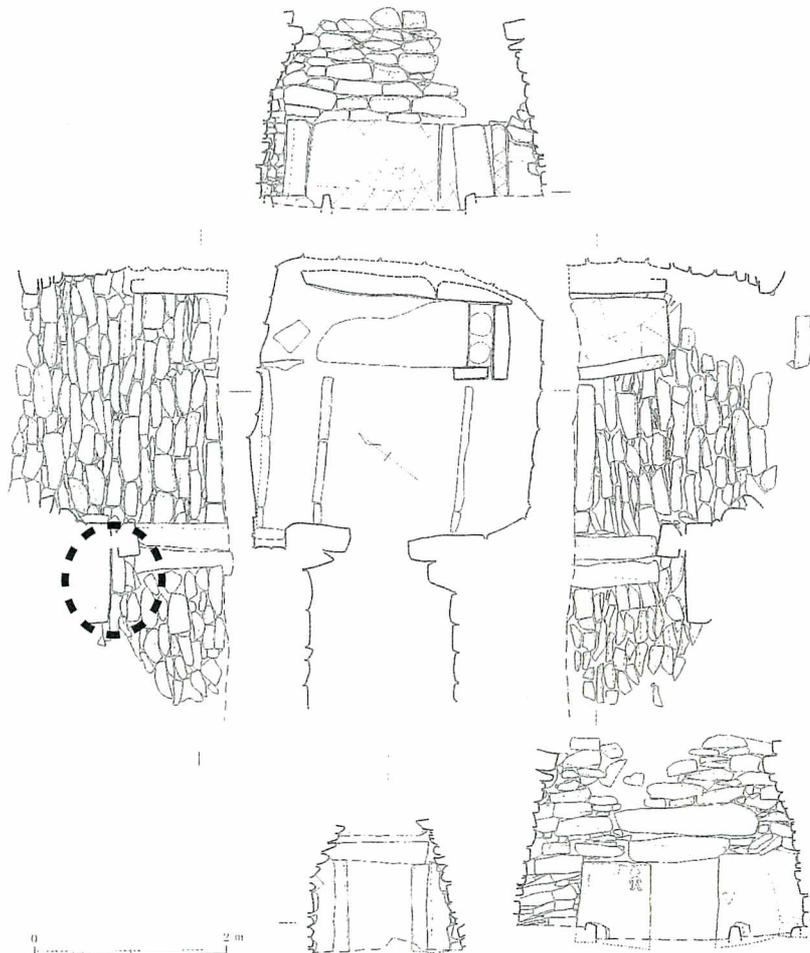
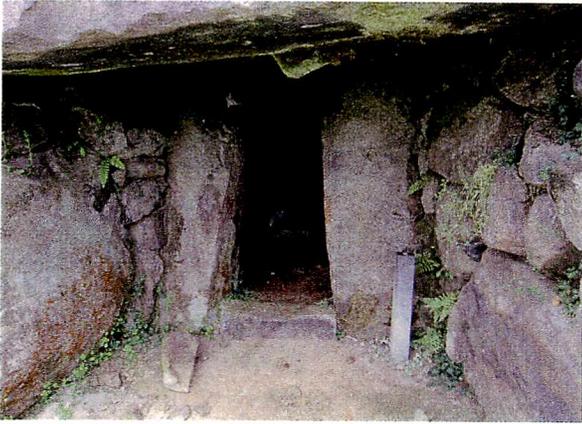


図6 白塚古墳 石室実測図 (高木ほか 1984 を一部改変)



1



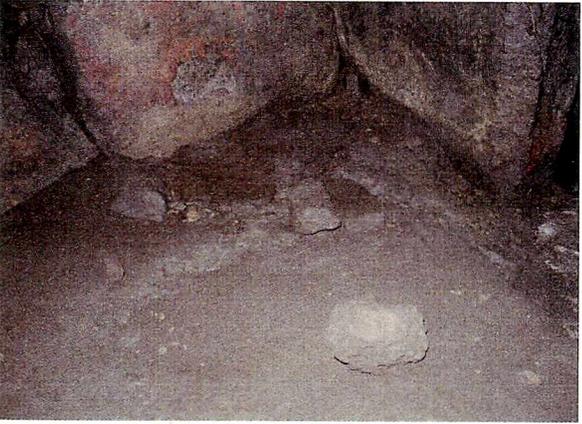
2



3



4



5



6



7



8

熊本地震で被害を受けた山鹿市内の古墳（1～3 オブサン古墳、4～6 御霊塚古墳、7～8 臼塚古墳）